

事業所名

児童発達支援・放課後等デイサービスSPICA

支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2025 年

2 月

18 日

法人（事業所）理念		インクルーシブな社会を目指すために障害のある方の人生に伴走し、地域に根ざした福祉サービスを提供します。 断片的なサポート（短距離走）ではなく、長い人生（マラソン）をじっくり継続的にサポートする仕組みづくりを目指します。 「親なきあと」の不安を軽減できる社会を作りたい。						
支援方針		お子さんが安心して過ごせる場所、将来の自立に向け必要なスキルをじっくり身に着ける場所として、「学習力」「社会力」「生活力（自立力）」の3本柱を目標としています。 【テーマ】 S：Self-esteem（自己肯定感） P：Partnership（仲間との協力） I：Identity（自分が自分であること） C：Communication（コミュニケーション） A：Atmosphere（成長を喜びあう雰囲気）						
営業時間		平日	9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり
		支 援 内 容						
本人支援	健康・生活	健康な心と体を育て自ら健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、健康状態のチェックと必要な対応を行う。 身の回りを清潔にし、食事、衣類の着脱、排泄等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう支援する。						
	運動・感覚	視覚・聴覚・触覚等の感覚を十分に活用し、お子さんの感覚の特性、過敏・鈍麻へ対応できる療育を行う。 季節イベントに合わせた工作の時間を設けることで、姿勢の保持と指先の緻密性につながるよう支援する。						
	認知・行動	情報を聞いて、行動へつなげるというゲームやあそびを行う。認知や行動の手がかりとなる数量・大小・色などが習得できるあそびを行う。（認知の偏り等の個々の特性に配慮） 具体的なものや絵カードを使った課題や、プリント学習の中で、数の操作、形、長さ、大きさ、時間などの概念を学ぶ。						
	言語 コミュニケーション	障害の特性に応じた読み書き能力の向上のための支援を行う。 各種の文字・記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に選択、活用し、環境の理解と意思の伝達が円滑にできるよう支援する。						
	人間関係 社会性	人との関係を意識し、身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行う。 集団に参加するための手順やルールを理解し、遊びや集団活動に参加できるよう支援する。 一人遊びの状態から並行遊びを行い、大人が介入して行う連合的な遊び、役割分担 したりルールを守って遊ぶ協同遊びを通して、徐々に社会性の発達を支援する。						
家族支援		家庭での困りごとに対する助言やサポート 日中一時支援の併用による時間の延長対応				移行支援	就学・就労による変化に対応できるよう、ライフステージに合わせて、生活の拠点となる地域・生活の場との交流と情報交換。 地域と繋がりながら日常生活を送るための交流。	
地域支援・地域連携		自治体、相談支援事業所、地域の保育所・学校、他事業所等との連携を重視することで、お子さんの個性、特性を多面的に把握、支援の方向性を合わせる。				職員の質の向上	職員の各種勉強会・オンラインセミナー・研修への参加 児発管等資格取得の支援あり	
主な行事等		季節のイベント、近隣施設・公園へのお出かけ、買い物支援						